

## 聴覚障害児教育における分離教育と統合教育 — 教育を受けた立場から —

筑波技術短期大学電子情報学科情報工学専攻<sup>1)</sup> 同卒業生<sup>2)</sup> 同2年<sup>3)</sup> 同デザイン学科卒業生<sup>4)</sup>  
長谷川洋<sup>1)</sup> 菊池真里<sup>2)</sup> 竹中佐和<sup>2)</sup> 斉藤康幸<sup>3)</sup> 佐々木寿子<sup>4)</sup>

**要旨：** 本学の在学学生を対象に聴覚障害児教育における分離教育（聾学校）と統合教育についてアンケートを実施した結果を報告する。統合教育における問題点は、授業が分からないことと友人との人間関係の構築が難しい点にある。統合教育を受けた学生の半数は難聴学級もない学校で学んでいる。それにも拘わらず、統合教育を受けて良かったと評価している。一方聾学校の場合は、学力が低い、人数が少なすぎる、通うのに遠いなどの問題がある。こうした結果をもとに、統合教育と分離教育のあり方について考察する。

**キーワード：** 統合教育 インテグレーション インクルージョン 分離教育 聾教育 聾学校 難聴学級

### 1. 緒言

聾学校に在学する生徒の数は、年々減少している。その減少の半分は少子化傾向によるものであるが、残りはインテグレーション(統合教育)の増加による。今では統合教育で学ぶ聴覚障害児の数は、聾学校で学ぶ生徒の数より多くなっている。統合教育の問題はいろいろあるが、実際に教育を受けた本人の声から学ぶことも多いと考え、本学の学生を対象にアンケート調査を行った。

本学には、聾学校出身者と通常の学校出身者がほぼ同じ割合で入学している。ただしこれは本学に入学する直前の学校での区別である。実際にはかなり複雑な修学履歴をもつ学生もおり、実際の修学歴に基づいて分類した。

本学の在学学生について少しコメントしておきたい。現在聴覚障害者の大学進学率（短期大学を含む）は、5～8%と言われている。2000年7月に発表された一般の大学進学率は49.7%であり、それと比べてかなり低い。すなわち、本学に入学する学生は、聾学校、通常の学校いずれにおいても、わずか5～8%の学力面での成功者であるということである。

アンケートは、2000年6月末から7月初めにかけて実施された。回収されたのは124通であり、在学学生総数171人の73%で、無記名である。

### 2. アンケートの結果

#### 2. 1 全体の構成

本学の構成とアンケート回答者の構成は下表の通りであり、その割合はほぼ一致している。

在学生の殆どが聾学校幼稚部には通った経験を持っている（87%）。しかし聾学校の小学部以上の経験者は、

48%で約半数である。一方、通常の学校も経験したという学生は65%で、約2/3であり、残りの1/3が聾学校だけの経験者である。通常の学校に通ったことがある人で、難聴学級の経験者は51%であるが、残りの49%つまり半数は難聴学級を経験しておらず、殆どサポートがない状態で通常の学校に通っている。

最終 出身校	本学全体		アンケート	
	人数	割合	人数	割合
聾学校	83	48,5%	61	49,2%
通常の学校	88	51,5%	63	50,8%
合計	171		124	

#### 2. 2 通常の学校の選択

通常の学校に通うことを、「親が決めていた」「自分で決めた」がほぼ同数であるが、これは小学校に入る段階では「親が決めた」のであろうが、通っている内に自分でもこれでよいと思うようになったということであろう。理由としては、「聾学校は世界が狭い」「聾教育に疑問がある」「聾学校に通うのが難しかった」などが挙げられている。

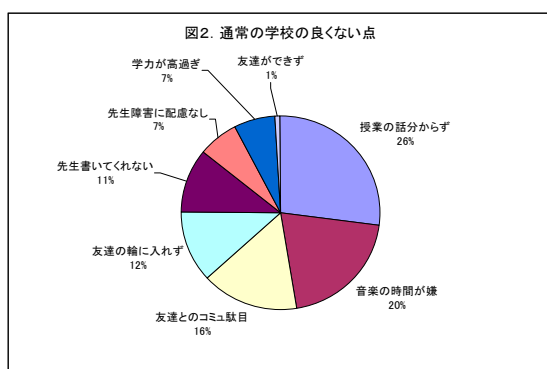
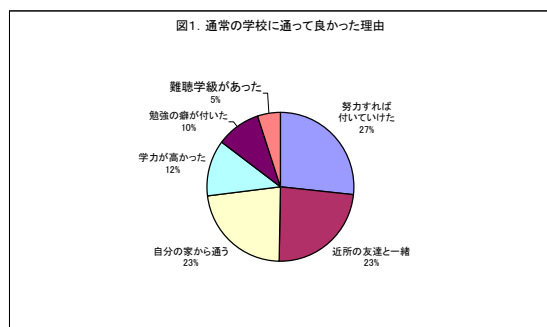
通常の学校に行った人の3/4が、通常の学校に行き良かったと感じている。「良くなかった」と答えた人は、わずか2%である。1/4は「どちらでもない」と答えている。

#### 2. 3 通常の学校の良い面、悪い面

この項は複数回答を認めており、( )内の%は、回答者の何%がその理由を選択しているかを示し、図中の%は、全選択件数に対するその回答数の割合である。

通常の学校の良い面としては、1)努力すれば付いていった(60%)、2)近所の友達と一緒にいた(52%)、3)自宅か

ら通うことができた(51%)であり、他に「学力が高い」「勉強の癖が付いた」「難聴学級があった」などがある。



良くない面としては、1)授業中先生や友人の話が分からなかった(41%)、2)音楽の時間が嫌だった(30%)、3)友人とのコミュニケーションがうまく行かなかった(24%)などであり、大きく分けると「授業が分からなかった」「友人関係がうまくいかなかった」の2つである。

通常の学校がこうした大きな壁を抱えているにも拘わらず、「行って良かった」という回答が非常に多いのはいかなるわけであろうか？ 第一の理由である「努力すれば付いていけた」がその答えを示唆している。すなわち、この回答者の殆どは、授業が分からない状態で、自分なりに頑張り何とか付いて行くだけの力を持っていた人たちである。才能と努力型の性格とがうまく作用したのである。逆に言えば、授業も分からず、友人も作ることができず、落伍した人も少なからずいることを考える必要がある。

## 2. 4 難聴学級

通級制の難聴学級に通った人が21人、固定制が4人である。良い面としては、発音指導、補習という面と、聞こえない仲間がいてほっとしたという心理的な面が挙げられている。悪い面としては、手話を教えてくれない、聞こえない者同士が慰め合っているだけ、という意見の

他、発音指導、口話指導をしてくれなかったという意見もある。しかし、全体的には、難聴学級があつてよかったと考えている。これは、殆ど授業が分からず、友達とのコミュニケーションもスムーズでない中で、難聴学級は救いの場であったと言えよう。ただ通級制の難聴学級の本来の役割は、そうであろうか？ 籍のあるクラスでうまくやっていけるようにサポートすることではないだろうか？

## 2. 5 理想の通常の学校

統合教育経験者に通常の学校がどのように変わってほしいかという点を聞いてみた。大きく分けると1)「情報保障」と2)「友人関係」の2つになり、先ほどの通常の学校の良くない面の裏返しである。1)では「授業の情報保障がある」「先生が手話を使う」「誰かがノートに書いてくれる」「先生がもっと黒板に書く」、2)では「先生・友人が暖かく接してくれる」「友人が手話を使う」「友人が自分を馬鹿にしない」などが多数意見であり、一部「クラスに聴覚障害者が数人いるなら」なども見られる。すなわち、籍のあるクラスでは、このような劣悪な状態にあったことを示している。

## 2. 6 統合教育経験者は、聾学校出身者をどう見ているか？

良い面としては、1)手話がうまい、2)面白い、3)誰とでも気軽につきあうことができる、悪い面としては、1)遊びすぎ、2)マナーが悪い、常識が足りない、という評価となっている。また「世界観が違う」という意見もかなりある。「学力が低い」「口話が下手」という点では、必ずしもそうだとは思っていないようである。

## 2. 7 聾学校出身者は、通常の学校出身者をどう見ているか？

よい面としては、1)学力が高い、2)大人の考え方ができる、という面を挙げ、マイナス面としては、3)手話が下手、4)通常の学校卒というプライドがある、などを挙げている。統合教育が、かつてはエリート・インテグレーションと言われたが、そうした名残が通常の学校出身者にまだ残っていると見えよう。

## 2. 8 聾学校と通常の学校の両方を経験した人の意見

聾学校と通常の学校の2つを経験した学生の意見は貴重である。幼稚部のみを経験している学生は多いが(56%)、ここで注目しているのは、小学部以上を経験してから通常の学校にインテグレートした学生(20%)の意見である。こうした学生はインテグレートによる環境の変

化を記憶している。

傾向に大きな差はないが「通常の学校で授業が分からなかった」「友人とのコミュニケーションがうまく行かない」「音楽の時間が嫌だった」などの項目で、通常の学校へ行った人の平均より10%程度高く出ている。コメントの中に、「聾学校は世界が狭い、通常の学校に行くと視野が広まった」「自分の障害を客観的に見ることができるようになった」「聴者に対するコンプレックスが消えた」など通常の学校で学ぶことのメリットを挙げると共に「気疲れ」「楽しくなかった」などマイナス面も述べている。しかしこの両方を経験した学生は、人間性などで一回り大きいものを持っている学生が多い。

### 3. 考察とまとめ

教育を受けた当事者の声を参考にして、聾教育と統合教育がもつメリット、デメリットを明確にして、いかなる教育プログラムが望ましいかという展望を持つことが必要であろう。

#### 3. 1 基本的な考え方

障害者の社会におけるあり方について、世界的な潮流としては、ノーマライゼーションという考え方が基本となっている。1994年にユネスコの会議において出されたサラマンカ宣言<sup>1)</sup>は、障害児（特別のニーズをもつ子ども）の教育に関して、通常の学校の中に障害児を受け入れて行くべきであるとした。同時に障害児を受け入れるための配慮が必要であることも述べられており、インクルージョンという考え方が示されている。しかし、ろう児<sup>1)</sup>については、分離教育が望ましい場合があり、母語としての手話を保障することも述べられている。すなわち、ろう児だけが唯一の例外となっている。こうした立場から、北欧でのバイリンガル教育<sup>2)</sup>は行われている。したがって、ノーマライゼーション—障害者が隔離されるのではなく、一般の人たちと共存する社会—を目指すという点は、いささかも揺るがない。その途中の過程としては分離教育もあるが、最終的目標としてノーマライゼーションがあり、ある段階から徐々に統合教育を取り入れている。

つまり、聴覚障害児には、分離教育も必要であり、同時に統合教育も必要であるというのが、基本的な考え方であり、どちらがよいとか悪いとかいう問題ではないことを確認しておきたい。

こうした両方の教育の組み合わせ方としては、世界各国でいろいろな試みがなされている。スウェーデン、デンマークはバイリンガル教育<sup>2)</sup>を行い、中学までは分離教育を行っているが、高校から統合教育に向かう。スウ

ェーデンでは、通常の学校の中にろう学生、難聴学生のクラスをおいて教育を行っているが、デンマークでは、1年間だけろう学生を集めて手話で教育を行うが、その後は一般の地域の高校で、手話通訳を付けて学ばせる。筆者が数年前に訪問したパリの聾学校では、小学生から籍は通常の学校にあつて、週に何日かその聾学校に通う形であつた。また、アメリカで行われているトライポッド<sup>3)</sup>の方式も参考になろう。このようにいろいろな形態がある。

#### 3. 2 それぞれの学校の特徴

通常の学校のもつメリットとして、1)地域の友達と同じ学校に行ける、2)聴者との共同生活を体験でき、視野も広がる、などがあり、デメリットとしては、1)授業が分からない、2)友人とのコミュニケーションが難しく、仲間はずれになったりすることがある。

難聴学級も、カウンセリングや補習をする場としてよりも、母学級で生徒ができるだけ良い環境で生活できるように支援するのが本来の目的<sup>3)</sup>であり、実際にそうした試みが大阪や東京で始まっている<sup>4)</sup>。多くの聴覚障害児が通常の学校で学んでいる現状を考えると、こうした問題にも積極的に取り組んでいく必要がある。

一方、聾学校のメリットとしては、1)授業が分かる、2)先生や友人とコミュニケーションがスムーズにでき、親密な関係を作ることができる、3)アイデンティティの形成が容易、などがあるが、デメリットとして、1)通うのが大変、2)人数が少なすぎる、3)学力が低い、などがある。

#### 3. 3 望ましいプログラム

かつての聾教育では、エリート・インテグレーションが行われていた。しかし、通常の学校に十分なサポート体制があつたわけではなく、単に放り込まれるだけになる場合もあつた。現在でも、聾学校、通常の学校、難聴学級の間、十分な連携があるとは言えない。

サラマンカ宣言の基本的な考え方は、幼少時から障害者と接していれば、一般の子どもも障害者の立場が分かるし、障害児も一般の子どもの考え方や立場が分かり、大人になったとき、相互の立場を理解し合える社会を作っていけるということであろう。

アンケートの中に自分の理想の学校として、「週2日は聾学校に、残りは通常の学校に」というのがあり、聴覚障害児もこの両方を求めていることをこのアンケートは示している。

聴覚障害児も、聴こえる子どもと同じように小さいときから周りの人と十分なコミュニケーションがあり、全

人的な成長が保障された環境で育てられる必要があると共に、大人になったときには一般の社会の中で生活していくのであるから、その準備もしていく必要がある。そうした見地に立って、聴覚障害児の教育がどうあるべきか、聾学校での教育と統合教育をどのように組み合わせていくか、それぞれがどのような役割を果たしながら、聴覚障害児を育てていくかという視点に立った教育プログラムを作っていく研究が必要ではあるまいか。

もちろん、こうしたプログラムは、一つではなく、聴力、(失聴年齢を含む)生育歴、(教育資源に関する)環境などにより、いくつかのプログラムがあり、その中から選択できるようなものとなる。しかし、そのいずれのプログラムもよく検討され、その子の生育にとって、ベストの教育を与えるものでなければならない。

聾学校の生徒数が減り、東京都などでも統合が進められている。しかし単に聾学校だけを視野においた改革ではなく、上記のような総合的な見地に立った教育システムの一部として改革を考えて行くべきではなからうか。

\*1: 聴力に障害をもつ子どもを本稿では、聴覚障害児と表現しているが、その中でも特に第一言語として手話を習得する子どもを「ろう児」と表現した。

\*2: 聴覚障害児に第一言語として手話を習得させ、第二言語としてその国の言葉を習得させる教育方法をバイリンガル教育という。北欧、アメリカなどで行われている。

\*3: 1984年に、アメリカのカリフォルニア州で始まった聴覚障害児の教育方式。幼児期から聴覚障害児と健聴児がほぼ同数というようなクラスを構成し、手話などを使って聴覚障害児にも分かる授業を行う。

#### 引用文献

- 1) 中野善達編: 国際連合と障害者問題—重要関連決議文書集、エンパワメント研究所発行、筒井書房、東京、1997
- 2) トータルコミュニケーション研究会: 北欧の聾教育から学ぶ～バイリンガル幼児教育から成人教育まで～、トータルコミュニケーション研究会、東京、2001
- 3) 東京都教育委員会: コミュニケーション指導等の研究委員会報告、東京都教育委員会、東京、2000
- 4) 山口淳: 生徒が通訳—SENを満たす学校作り、坂本久美: 聴覚障害教員から見た統合教育、第12回聾教育を考える全国討論集予稿集、p.103、p.110、2000

#### 使用したアンケート

#### 統合教育についてのアンケート

長谷川 洋 (情報工学)、菊池真里、  
竹中佐和、佐々木寿子、斉藤康幸

統合教育 (インテグレーション教育) にはいろいろ問題があると言われながらも、統合教育を受ける聴覚障害者は増え続けています。この技短の学生も半分は、統合教育を受けています。この教育について、問題点は何か、改善するためには何が必要かを明らかにして、後輩の教育が少しでも改善されることを期待して行くものです。得られた結果については、教官: 長谷川 (情報工学) と学生の有志が一緒になって分析し、「ろう教育を考える全国討論集」で発表する予定です。ご協力の程、お願い申し上げます。

統合教育: インテグレーション教育ともいう。障害者が、ろう学校などの特殊学校ではなく、普通の一般校に通って勉学することを言います。聴覚障害者の場合、現在では60～70%が統合教育を受けていると推定されています。

- [1] 学年 [\_\_\_\_年] 学科・専攻  
( ) デザイン ( ) 機械 ( ) 建築  
( ) 電子工学 ( ) 情報工学

- [2] 氏名 [\_\_\_\_\_]   
書かなくても構いません。後でインタビューに協力しても構わない方は書いて下さい

- [3] ( ) 一般校に通ったことがある

( ) 通ったことがない

- [4] ( ) ろう学校へ通ったことがない

( ) 通ったことがある

( ) 国立 ( ) 公立 ( ) 私立

ろう学校に通ったことがある人に伺います

( ) 教育相談とか幼稚部だけ

( ) 小学部以上に通ったことがある

ろう学校だけしか経験のない方にお伺いします。

- [5] ろう学校に通ってよかったと思うことは何です

- か？
- 勉強が分かる、分かるまで教えてくれる
  - 親友ができた
  - 先生とも親しくなれた
  - 手話を習得できた
  - 発音指導など専門の指導を受けられた
  - いろいろな仕事があった
- その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [6] 一般校に通いたいと思ったことがありますか？
- はい  いいえ
- [6-1] 「はい」と答えた方に それはなぜですか？
- 自宅から通いたかったから
  - 人数が多いから
  - 聞こえる人とも友達になりたいから
  - 学力が高いから その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [6-2] 「いいえ」と答えた方に それはなぜですか？
- 授業が分からないだろう
  - 友達ができないだろう
  - いじめられるかもしれないから
- その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [7] ろう学校にいるとき、一般校に通っている聴覚障害者の知人、友人がいましたか？
- はい、  いいえ
- [7-1] 「はい」と答えた方に その知人・友人をどのように見ていましたか？
- (いくつでも○を付けて下さい)
- うらやましい  頭がよい
  - 付いていくのが大変だろう
  - ろう学校に来た方がよいのに
  - 友人がいないので、かわいそう
  - 何とも思わなかった
- その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [8] もし一般校が変われば、通ってもよいと思うということがありますか？
- (いくつでも○を付けて下さい)
- 友人や先生が聴覚障害者にももっと暖かく接してくれるなら
  - 友人や先生が手話などを使ってくれるなら
  - もっと授業のときに書いてくれるなら
  - クラスに聞こえない人が一人ではなく、数人いるなら
  - 誰か授業のときに情報保障してくれるなら
  - 相談とか補習などを引き受けてくれる先生がいるなら

- その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [9] こんな学校なら良いなと自分が理想として考えている学校がありましたら、聞かせて下さい。
- ( \_\_\_\_\_ )
- [10] 技短で、一般校出身の学生とつきあうようになって、どのように感じましたか？
- (○：そう思う △：少しそう思う (一般校出身の人と比べると多い) ×：そう思わない)
- 思いやりがある
  - 大人の考え方ができる
  - しっかりしている  学力が高い
  - 人付き合いが悪い  考え方が固い
  - 自分が偉いと思っている
  - 一般校出身というプライドがある
  - 手話が下手 その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [11] その他、何でも構いませんから、教育について考えていることがありましたら、書いて下さい。

ここまでで、ろう学校だけの経験のある方は終了です。どうもご協力有り難うございました。

**一般校に通ったことがある方にお伺いします。**

- [12]  ろう学校へ通ったことがある  通ったことがない
- [13] 難聴学級が  小学校  中学校  高校にあった それは  通級制だった  固定クラスだった

**ろう学校に通ったことがある方にお伺いします。**

- [13-1] 通ったのはいつですか？ 二度行ったことがある人は両方とも書いて下さい。
- 通い始めたのは、( ) 幼稚部 小学部 ( ) 年 中学部 ( ) 年 高等部 ( ) 年 専攻科 ( ) 年 終了したのは、( ) 幼稚部 小学部 ( ) 年 中学部 ( ) 年 高等部 ( ) 年 専攻科 ( ) 年
- [14] 一般校に通った理由は何でしょうか？
- 親が決めていたので  自分の意志で
  - ろう学校は世界が狭い
  - ろう学校の教育に疑問があった
  - ろう学校に行きたかったが、いろいろ理由があって難しかった
- その他 ( \_\_\_\_\_ )
- [14-1] 「ろう学校の教育に疑問があった」「ろう学校に行きたかったが、いろいろ理由があって…」と答えた方にお伺いします。どういう疑問や理由ですか？

- ( ) 学力レベルが低い ( ) 手話を使わない  
 ( ) 人数が少なすぎる  
 ( ) 住んでいる場所から遠すぎて通えなかった  
 ( ) 地域の友達と離れるのが嫌だった  
 その他 ( )
- [15] 一般校に通っていかがでしたか?  
 ( ) 良かった ( ) 良くなかった  
 ( ) どちらでもない
- [15-1] どこが良かったですか? (いくつでも構いません)  
 ( ) 自分の家から通うことができた  
 ( ) 地域の友達と一緒にだった  
 ( ) 学力が高かった  
 ( ) 努力すれば付いていくことができた  
 ( ) 勉強する癖が付いた  
 ( ) 難聴学級があった その他 ( )
- [15-2] どこが良くなかったですか?  
 (いくつでも構いません)  
 ( ) 学力が高すぎて付いていくのが大変だった  
 ( ) 先生が授業の時ほとんど書いてくれなかった  
 ( ) 先生が聴覚障害にほとんど配慮してくれなかった  
 ( ) 授業のときに先生やクラスメートの話していることが分からず、困った  
 ( ) 友達ができなかった  
 ( ) 友達とのコミュニケーションがうまく行かなかった  
 ( ) 友達の輪に入ることができなかった  
 ( ) 音楽の時間が嫌だった  
 その他 ( )
- [16] 難聴学級に通ったことがある方にお伺いします。  
 [16-1] 難聴学級の良い面は何ですか?  
 ( ) 遅れている勉強を教えてくれた  
 ( ) 発音指導もやってくれた  
 ( ) 同じ聞こえない仲間がいるのでほっとした  
 ( ) 母学級の先生や生徒に自分のことを説明してくれた  
 その他 ( )
- [16-2] 難聴学級の悪い面は何ですか?  
 ( ) 母学級に問題があっても何もしてくれない  
 ( ) 発音指導などをやってくれなかった  
 ( ) 口話を指導してくれなかった  
 ( ) 手話を教えてくれなかった  
 ( ) 聞こえないもの同士慰め合っているだけだった  
 その他 ( )
- [17] いま考えてみて、どのような点を改善すれば、一般校での生活も楽しくなると思いますか?  
 ( ) 友達が手話を覚えてくれてコミュニケーションがうまくできれば…  
 ( ) 先生が手話を覚えてくれて授業がよく分かるなら…  
 ( ) 友達が自分を馬鹿にしないなら…  
 ( ) 音楽の時間が無いなら…  
 ( ) 誰か授業の内容をノートに書いてくれるとか、相談に乗ってくれるなら  
 ( ) 友人や先生が聴覚障害者にももっと暖かく接してくれるなら  
 ( ) 友人や先生が手話などを使ってくれるなら  
 ( ) もっと授業のときに書いてくれるなら  
 ( ) クラスに聞こえない人が一人ではなく、数人いるなら  
 ( ) 誰か授業のときに情報保障してくれるなら  
 ( ) 相談とか補習などを引き受けてくれる先生がいるなら  
 その他 ( )
- [18] こんな学校ならばばらしいなど自分が理想として考えている学校がありましたら、聞かせて下さい。  
 ( )
- [19] 技短で、ろう学校出身の学生とつきあうようになって、どのように感じましたか?  
 (○: そう思う △: 少しそう思う (一般校出身の人と比べると多い) ×: そう思わない)  
 ( ) 面白い ( ) 人付き合いがうまい  
 ( ) 手話がうまい  
 ( ) 誰とでも気軽につきあうことができる  
 ( ) しっかりしている  
 ( ) 仕事を進める力がある  
 ( ) だらしない ( ) 遊びすぎる  
 ( ) 学力が低い  
 ( ) 自分たちと世界観が違う  
 ( ) マナーが悪い ( ) 常識が足りない  
 ( ) 口話が下手  
 ( ) ろう学校にも手話を使わない学校がある  
 その他 ( )
- [20] その他、何でも構いませんから、教育について考えていることがありましたら、書いて下さい。
- どうもご協力有り難うございました。

Education in Schools for the Deaf and Mainstreaming  
— Assessment by Students Who Have Received Education —

Hiroshi HASEGAWA <sup>1)</sup>, Mari KIKUCHI <sup>2)</sup>, Sawa TAKENAKA <sup>2)</sup>,  
Yasuyuki SAITO <sup>3)</sup>, Hisako SASAKI <sup>4)</sup>,

<sup>1)</sup> Information Science Course, Department of Information Science and Electronics, Tsukuba College of Technology

<sup>2)</sup> Graduate of the Above Course, Tsukuba College of Technology

<sup>3)</sup> Sophomore of the Above Course, Tsukuba College of Technology

<sup>4)</sup> Graduate of Department of Design, Tsukuba College of Technology

**Abstract :** We report on the results of a questionnaire carried out by students of Tsukuba College of Technology about education in schools for the deaf and integration. Problems of deaf and hard of hearing (D/HH) children educated in regular classrooms are; 1) D/HH children can't grasp contents of lessons, 2) it is difficult for them to be familiar with their classmates. Half of the students who have been educated in regular classrooms don't receive any support, but most of them regard their experiences in regular classrooms as valuable ones. On the other hand, they mentioned problems in the education in schools for the deaf; 1) low level, 2) few children in a class, 3) the school is too far to commute from their homes. It seems to be important to construct education systems for D/HH children which consist of segregated and integrated education, as both are essential for them.

**Key Words :** integrated education, integration, mainstreaming, inclusion, education for the deaf, school for the deaf, resource room for the hard of hearing